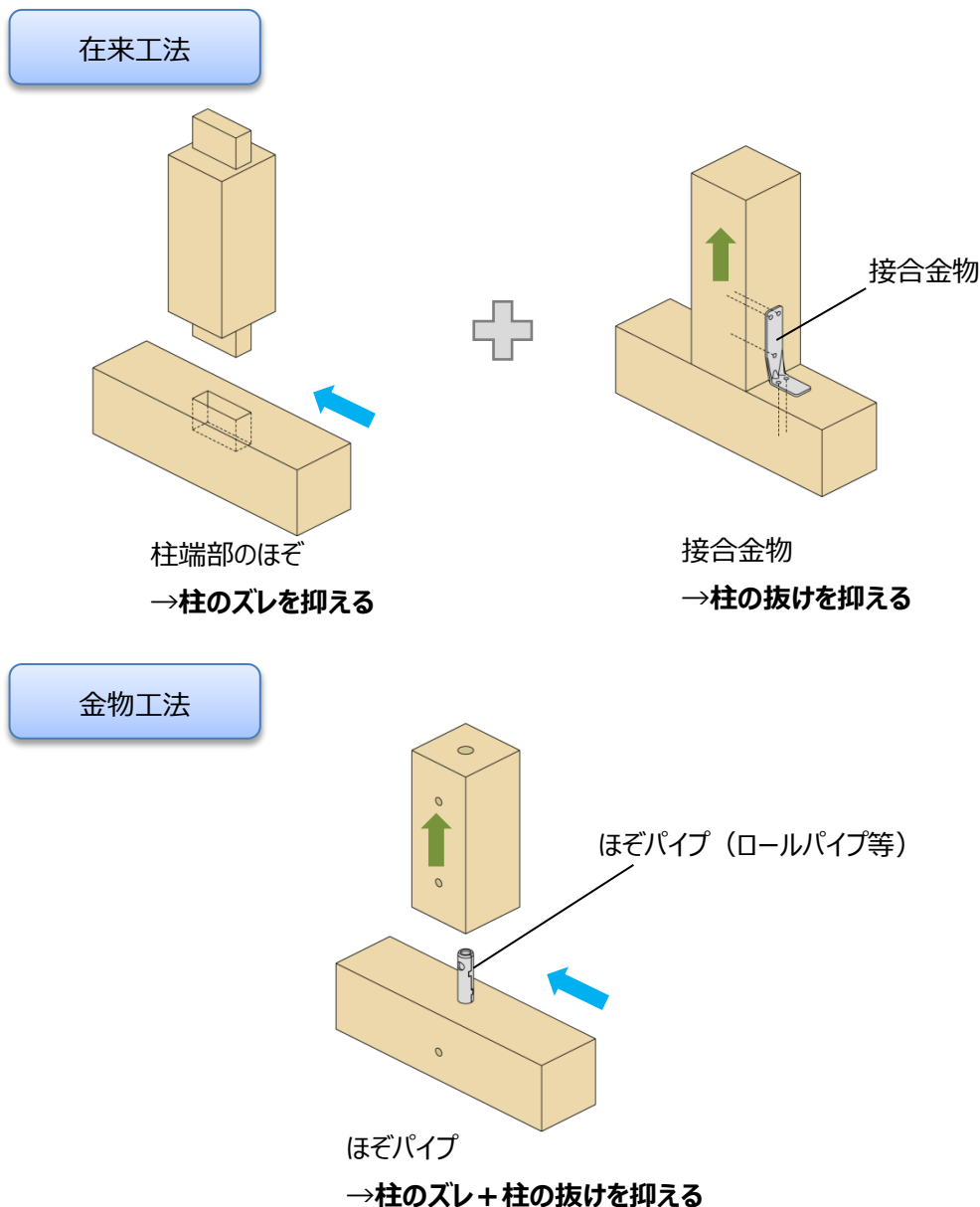


「金物工法には複合応力の検討が必要だと聞いたのですが、複合応力の検討とは何ですか？」とご質問を頂くことがあります。

今回のQ & Aでは、複合応力の検討について説明します。

柱頭柱脚の複合応力の検討ってなに？

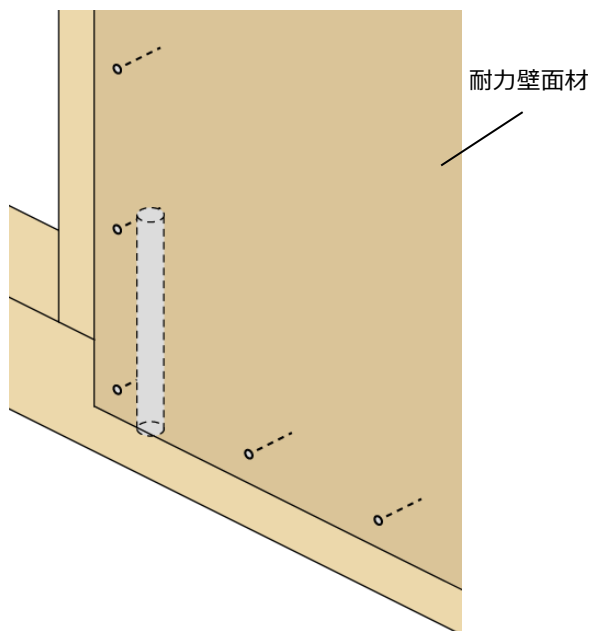
柱頭柱脚にせん断や引抜など複数の力がかかる場合、それぞれの力を同時に受けるような接合部に求められる検討のことです。例えば、在来工法の接合部はほぞが柱のズレを抑え、接合金物が柱の抜けを抑えるのに対し、金物工法の接合部はほぞパイプ（ロールパイプ等）で柱のズレと抜けを同時に抑える必要があります。そのため、金物工法では複合応力の検討が必要になる場合があります。



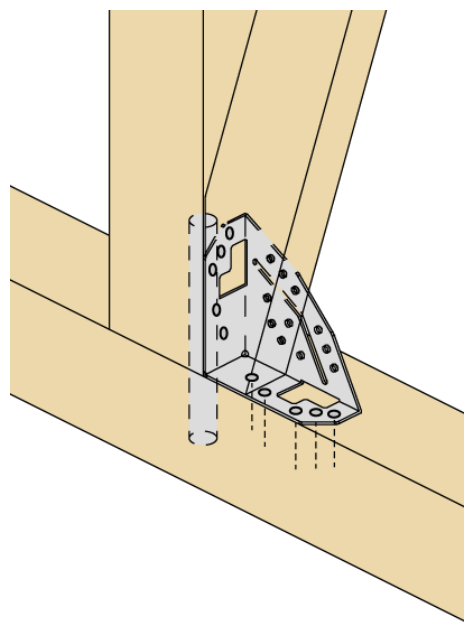
金物工法の場合は必ず複合応力の検討が必要な？

以下の条件に当てはまる場合は、**検討が不要**です。

①面材耐力壁の場合



②筋かい端部の金物が横架材に釘やビスで接合されている場合



平成27年4月1日に発売した『PS筋かい金物』及び『PS筋かい金物合板タイプ』は、複合応力の検討が不要かつ金物工法[※]の梁スリットに干渉しない金物です。

※金物工法・・・B X カネシンの金物工法（プレセッター、プレセッタータイプM、プレセッターSU）

『PS 筋かい金物』

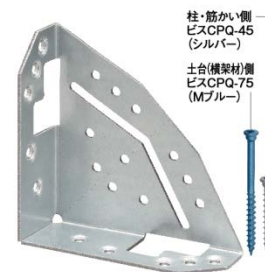
リンク：<http://www.kaneshin.co.jp/products/productsd.php?icd=1000660>



『PS 筋かい金物』

『PS 筋かい金物合板タイプ』

リンク：<http://www.kaneshin.co.jp/products/productsd.php?icd=1000661>



『PS 筋かい金物合板タイプ』

不明点がございましたら、B X カネシン CS センターへお問い合わせください。

B X カネシン CS センター：TEL.03-5671-1077

今後とも、弊社製品をよろしくお願ひ致します。